足寄町職労

商品券購入1130万円に

商工会と覚書調印　来月10日から利用

【足寄】地元の消費拡大策として町職員労働組合（丸山一人委員長、163人）が町商工会から購入する商品券の額が、1130万円に達することが確定した。12月10日から利用が始まる。

町職労は、4月～11月の給与の3％、組合員平均8600円を商品券購入費用として、組合費とは別に徴収することを3月に決めていた。購入額は当初、1200万円と試算したが、管理職昇格などによる組合員の減少で70万円下回った。

6日には丸山委員長と町商工会の太田良事務局長が、商品券発行に関する覚書に調印した。商品券は印刷が完了しており、来月1日、各組合員に拠出分を配布する。有効期限は来年6月9日。

商品券購入は、町職員の給与削減が本年度、6年ぶりに見送られたことから、増収分を地元に還元する試み。プレミアム（割り増し）は付けていない。田中剛己副委員長は「組合員へのアンケートなどを行い、今後も地域貢献策を探っていきたい」と話している。

町商工会は「消費が低迷する中、組合の大規模な取り組みは非常にありがたい」（太田事務局長）と歓迎している。（小林基秀）

印刷された商品券を手にする町職労の丸山委員長（右）と町商工会の太田事務局長

帯広のマチづくりグループ

情報サイトを開設

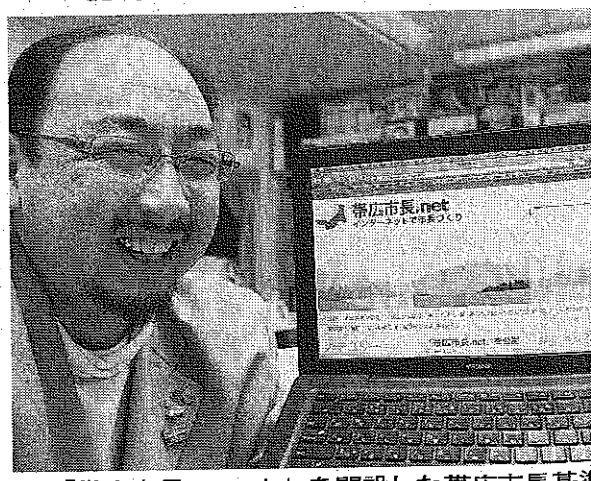
来年4月の帯広市長選に向け、帯広のマチづくりに関心のあるグループ「帯広市長基準をつくる会議」は10日、市長に求められる資質などをインターネット上で意見交換する情報サイト「帯広市長・net」を開設した。

同会議は20代や30代で構成。サイト開設を予定していた帯広市長基準づくり実行委（萩野明宏代表）が同日、グループ名を改め、サイト運営を始めた。

同会議によると、実名でも匿名でも投稿できる。投稿内容はそのままサイトに掲載されるわけではなく、同会議が誹謗中傷の有無などを点検した上で、差し支えなければ掲載するという。

萩野代表は「若者に選挙に関心を持ってもらう場を作りたかった。どんどん意見を寄せてほしい」と話している。投稿ルールなどの詳細は同サイト（http://www.obihiro-mayor.net/）。

一方、同会議はインターネットに不慣れな人の意見は「手紙でもどうぞ」と呼び掛けている。手紙での投稿は、帯広市長基準をつくる会議（〒080・0015　帯広市西5南11の28の1）へ。（椎名宏智）



「帯広市長．ｎｅｔ」を開設した帯広市長基準つくる会議の萩野代表

池田高・渡部君

スケートジュニアW杯へ

「表彰台上がりたい」

【池田】池田高3年渡部知也君(18)が、中国・ハルビンで21、22日に開かれるスピードスケートのジュニアワールドカップに出場する。昨年に続く世界への挑戦。10日、町役場を訪れ、勝井勝丸町長に「自分の力を出して確実に入賞し、表彰台にも上がりたい」と抱負を話した。

渡部君は10月の全日本距離別選手権で、1500㍍が全体の11位、5千㍍同10位と健闘。ジュニアとしては両種目1位で、日本代表に選ばれた。

顧問の木幡伸二教諭(33)は「昨年に比べ体力が格段に向上し、滑りに安定感が出てきた」と好成績を期待する。

来春、日本体育大に進学する予定。高校最後のシーズンに向け、「（国内では）高校生には負けないよう頑張る」と意気込んだ。（大槻明永）

「表彰台に上がりたい」と意欲を見せる渡部君

応募は5件

はぐくーむ

帯広市緑化審議会が10日、市役所で開かれた。市は、帯広の森に建設中の「帯広の森・はぐくーむ」の指定管理者を9日まで募集した結果、5団体の応募があったと報告した。

「はぐくーむ」は来年4月にオープンする予定。帯広の森の育成管理拠点となるほか、市民の体験学習の場にもなる。13日に選定委員会を開き、審査した上で絞り込む。

市はまた、十勝飛行場（陸上自衛隊帯広駐屯地内）近くの「帯広の森」などに航空法の高さ制限を超えた樹木がある問題に関し、本年度中にこの樹木を国の補助で伐採すると報告した。市によると、対象木は帯広の森が357本、南町配水場が40本。

同審議会はこの日、新委員15人の中から委員長に帯広畜産大学の辻修教授(54)を選んだ。